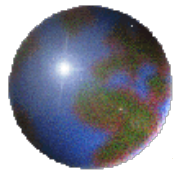


「歩けなくても暮らせる」交通まちづくり ～おでかけ支援×集いの「場」の構築～

東京大学大学院工学系研究科
教授 原田 昇

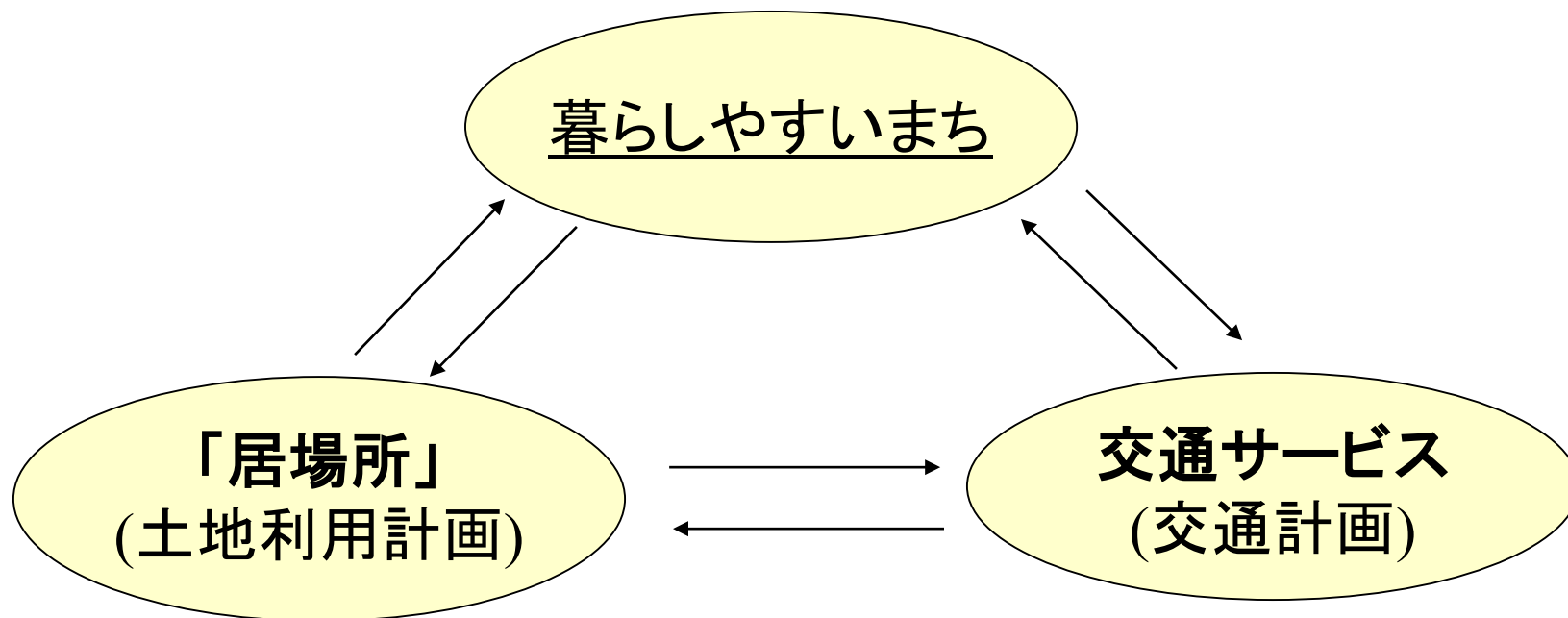


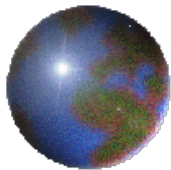
「交通まちづくり」とは

❖ 「暮らしやすいまちの実現に貢献する交通計画の立案・実施・戦略展開」

❖ まちづくりと一体となった交通整備

- 公共交通を軸とするコンパクトシティ(富山市)
- 観光地と一体となった鉄道の再生(京都丹後鉄道)





近隣住区論(Neighborhood unit)



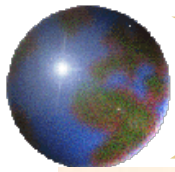
1927年 米国 車は2000万台で急増中

社会学者A.ペリーの提案

コミュニティ復権を目指した
社会学的住宅地理論
物理的住区構成を提案

- ①規模は1小学区
- ②近隣住区の外周は幹線道路で、通過交通利用
- ③地区内道路は速度抑制のため線形などを工夫
- ④商店街は、外周道路の交差付近に立地させ、各近隣住区の商店街を集積させる

高齢者の行き場は、「学校的施設」ではないか？ 健康維持、料理、語学、
・少し調子が悪くても出かける「場」

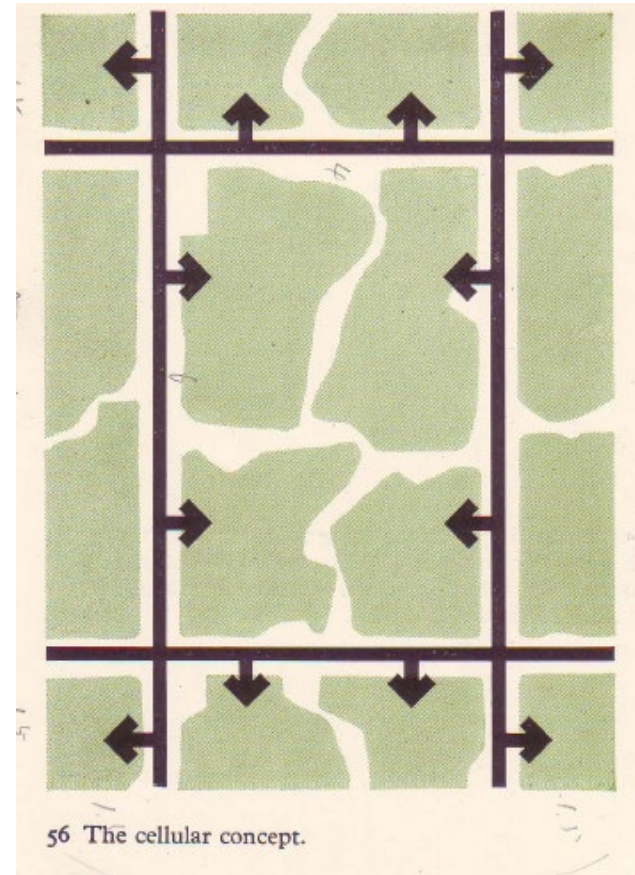


温故知新「居住環境地区に学ぶ」

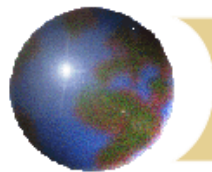
Environmental Area Buchanan report(1963)



幹線分散路
地区分散路
局地分散路
居住環境地区境界線



ブキャナンレポート「都市の自動車交通」

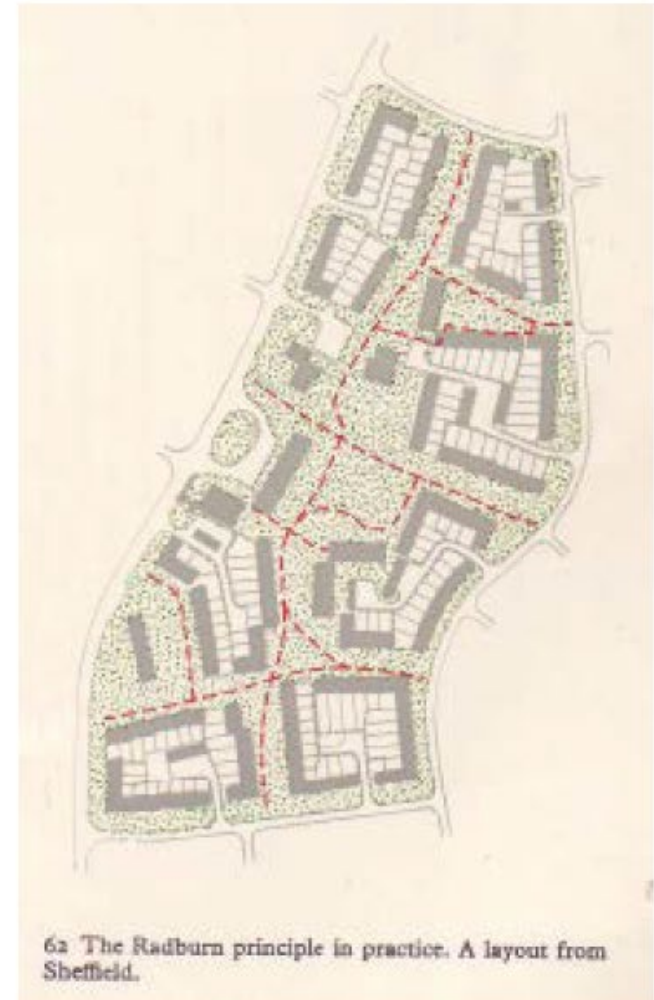
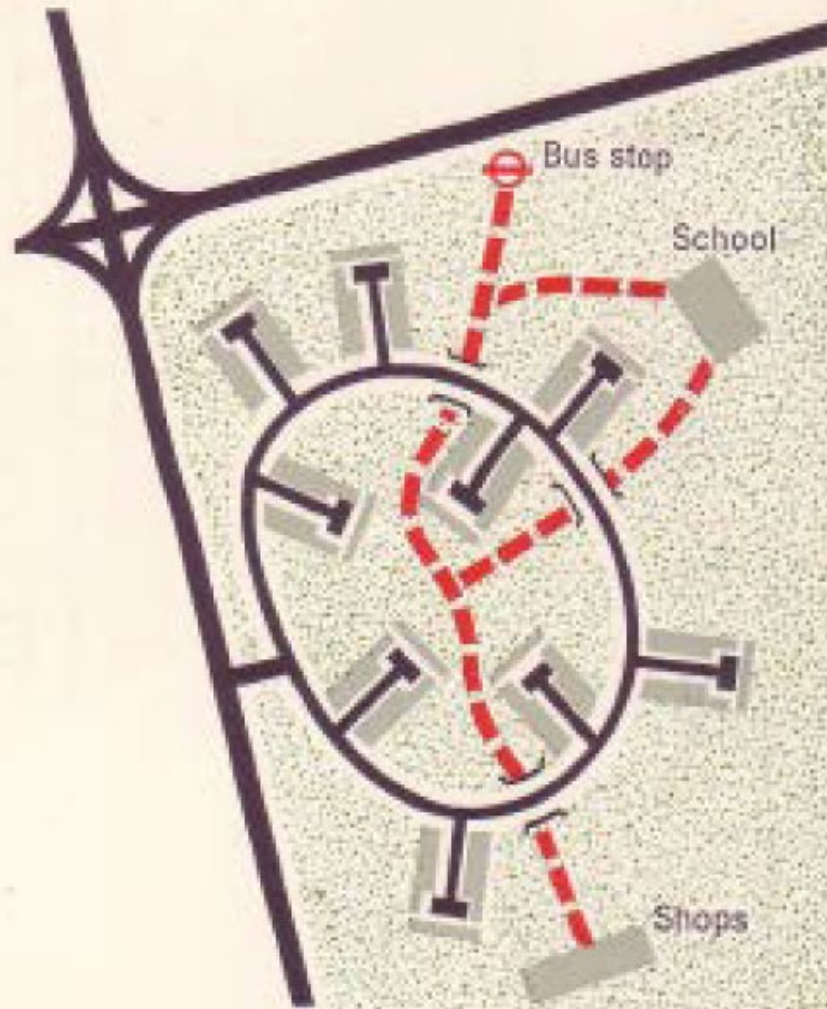


都市と車の共生の原点=「居住環境地区」

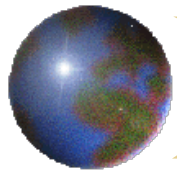
- ❖ ブキャナンレポートは、都市と車の共生を論じ、道路の段階構成などを提案した。
- ❖ 特に、幹線道路に囲まれ、通過交通を排除する「居住環境地区」は有名である。
- ❖ 「自由に歩ける地区を車の危険から守る」という考え方を基本としている。
- ❖ Vulnerable Road UserとMotor Vehiclesの分離である。
 - ❖ 「居住環境地区にサービスする交通を支えるために幹線道路を含む段階的に構成される道路網が必要になる」
 - ❖ 「道路網は、地区の容量に適するようにデザインされる」
 - 幹線道路が居住地区に近すぎる場合は、速度を制限する。

Radburn planning

自由に歩ける地区



Buchanan Report, "Traffic in Town"



居住環境地区と道路網の関係

a service relationship:

居住環境地区にサービスする交通を支えるために幹線道路を含む段階的に構成される道路網が必要になるのであり、その逆ではない。

★道路の線形や配置は、都市部では、車の走りやすさを最優先して決めるのではなく、まず、既存の生活圏である居住環境地区を守ることを第一に決められる。

a capacity relationship:

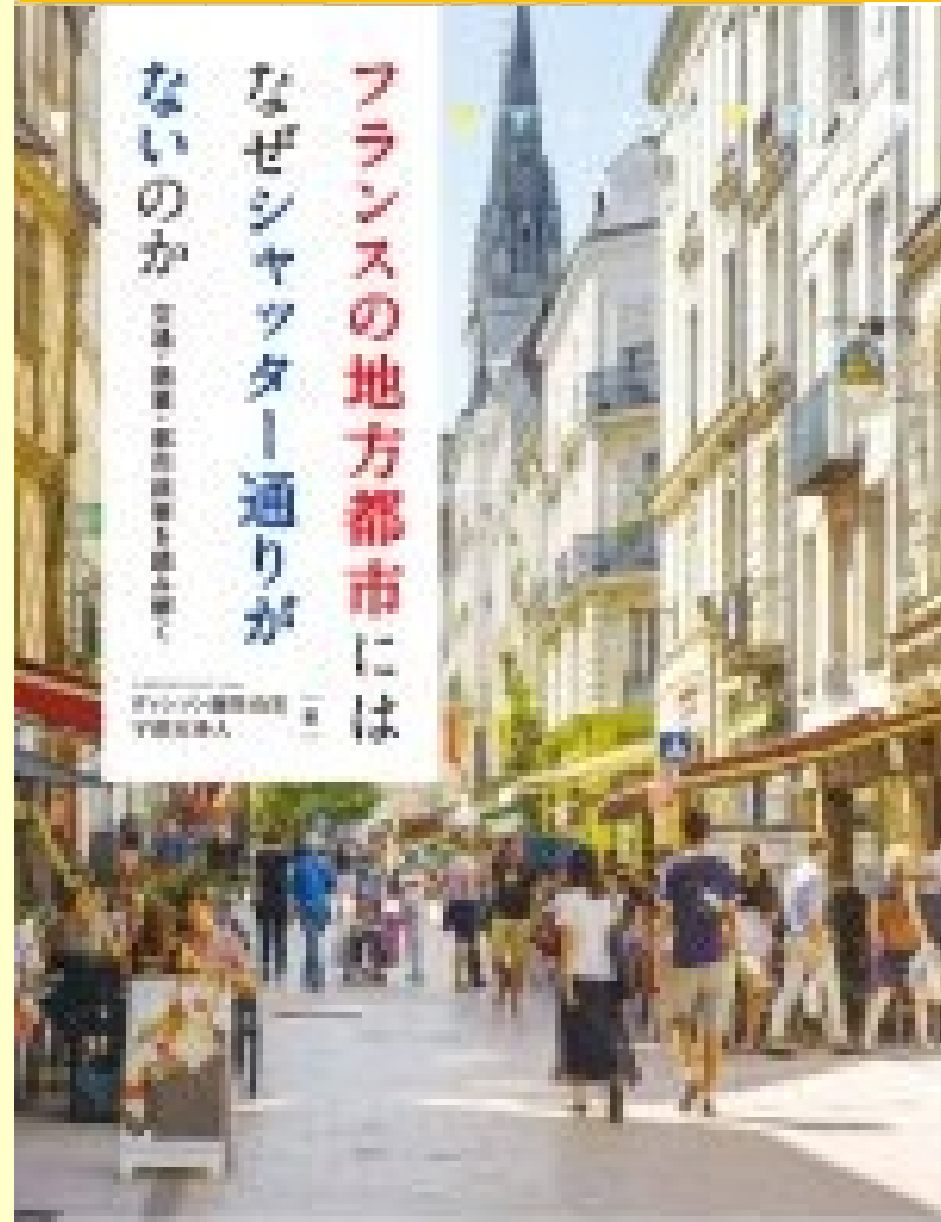
道路網は、地区の容量に適するようにデザインされる。

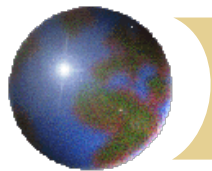
★都心部に十分な容量がないのに、太い道路をつくり、郊外から車を呼び込むようなことは適切でない。逆に、都心を再整備し容積をあげ、駐車場を用意しても、周辺の道路網が不足しては不十分である。

ブキャナンレポート「都市の自動車交通」

❁ ヴァンソン藤井

- ❁ 実はフランスは日本を超える「クルマ社会」である。しかし、人口15万人以上の地方都市の中心部には人が溢れ、活気に満ちており、「歩いて楽しいまち」となっている。フランスには、**コンビニや宅急便はない**が、それらを補って余りある豊かな暮らしが用意されている。
- ❁ ストラスブール「徒歩憲章」
- ❁ 「クルマが出現した20世紀に我々は大きな自由を手に入れたが、同時に『人と交わる』機会が少なくなった。クルマの登場で、人々は自分の閉鎖空間に閉じこもり、そこに紛れ込むよそ者には厳しい目を向けるようになった。まちを歩き、もう一度、市民がすれちがう『都市空間』を取り戻そう。」 つまり、
- ❁ 「人は歩き、人と出会い、自分とは違った文化や考え方をもつ他の市民を尊重しながら民主主義が育ってきた。」





資料を作りながら思ったこと

- ❊ 長期的には都市構造を変えたいが、中短期的には、移動支援サービスの提供が重要である。
- ❊ 人と会って話をすることは人々の心身の健康にとって大変に重要。
 - 歩ける人には、「歩いて暮らせる」まちづくりを。
 - 「歩けなくても暮らせる」ために、一番は「おでかけ支援」、二番は「移動販売」、三番に、「移動代替」通信、宅配、ロボット。
リアルな活動ができるようになる???
- ❊ 「好きな仲間と集まって好きなことをする」ことが重要。
 - その一つは「ソーシャルネットワーク」。会いたくなる仲間を如何につくって維持しているか解明が重要

電動カート、セニアカーレンタル

格安!!長期レンタルバイク

バイク

売・買取・修理・レンタル

介護保険
適用で

なんと1ヶ月

2,000円

これからの当たり前



50cc
原付

1ヶ月

5,000円~

今すぐ乗れる!す~っと乗れる!!



S Bike

20-819-358



ALSO

GOOBIKE

雨ニモマケズ、
風ニモマケズ、
今日を生きる

星めぐりの町

小林稔侍

増田 寛井陽太
神戸浩 六平直政 / 平田満 / 高島礼子

脚本・監督 黒土三男

音楽・効果音 田代百合子・田代百合子・田代百合子・田代百合子・田代百合子・田代百合子・田代百合子・田代百合子・田代百合子・田代百合子



突然、家族を失った少年
彼が唯一心を聞いたのは、
優しい手をした豆腐屋だった。



本作は、東日本大震災で家族を失った少年と、実直に生きる豆腐屋が出会い、心の再生を通じて生きていくことの大切さを教えあう物語。妻を早くに亡くし、自然に根差した自給自足の暮らしを続ける主人公の島田勇作を小林稔侍が演じる。

移動販売は、特定の「場(Place)」が移動するものである。

出典

左はポスター。

右上は、映画ランドのサイト

<https://eigaland.com/topics/?p=65922>

Robert D. Putnam

- 様々な人と人とのつながり=《社会的関係資本》(Social capital)が、幸福な暮らしと健全な民主主義にとっていかに重要かを膨大な調査データから立証した全米ベストセラー。
- 「20世紀後半の三分の一を通じてアメリカでは、社会的つながりと、市民参加に関して重要な問題が発生した。」
- その要因として判明したものは
 - 10 時間と金銭面のプレッシャー、共働きなど
 - 10 郊外化、通勤とスプロール現象
 - 25 電子的娯楽、とりわけテレビ(当時)
 - 50 世代的変化、関与の少ない世代への置換
- 同じ社交でも「公」から「私」への急激な偏りが進んだ結果、人づきあいがそのまま共同体を支える糧ではなくなって、社会全体を枯渇させ始めている。(生井英考、日経新聞「読書」2006/5/28)

Bowling alone; The Collapse and revival of American community, 2001/8/7



Bowling alone:
The collapse and revival of
American community

孤独なボウリング 米国コミュニティの崩壊と再生

ロバート・D・パットナム 著
柴内康文 訳

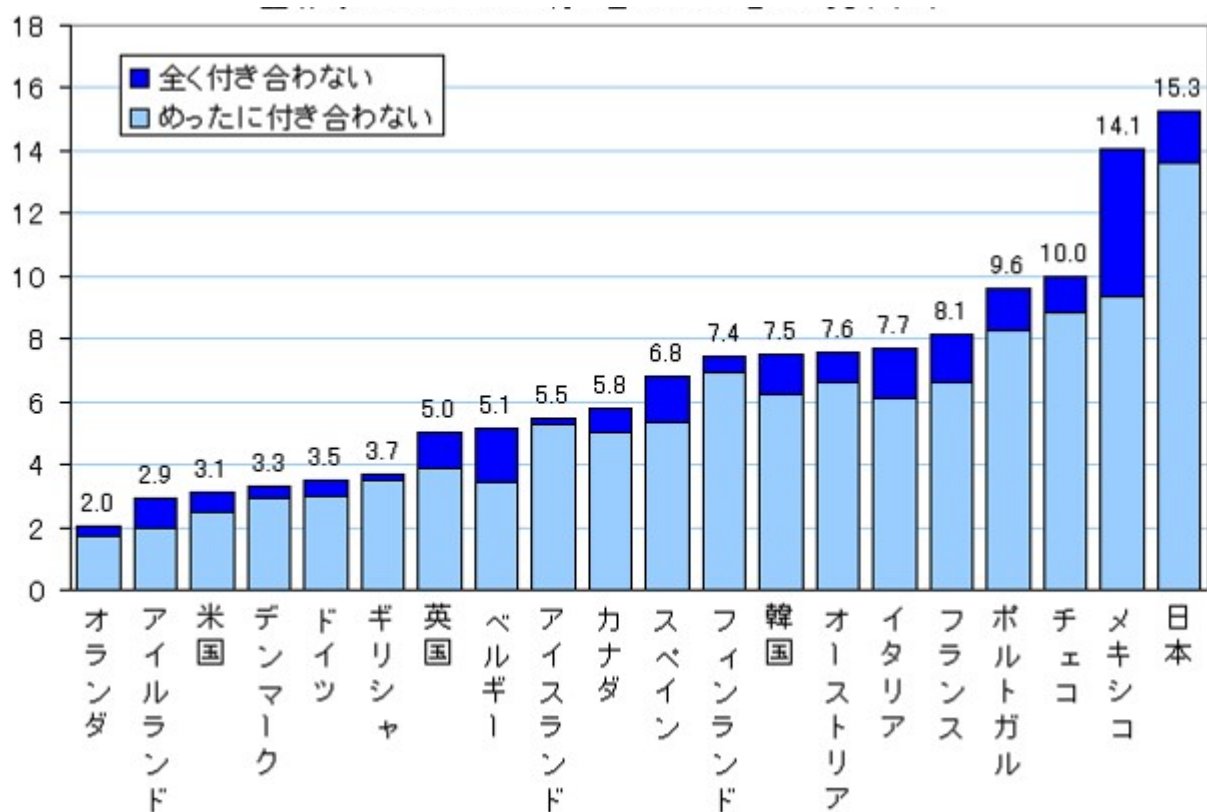
つよいアメリカを支えた
市民的つながりの減少は、
いつ・どこで・なぜ起こったのか？

様々な人と人とのつながり=《社会関係資本》が、
幸福な暮らしと健全な民主主義にとっていかに重要かを
膨大な調査データから立証した全米ベストセラー。

柏書房 定価(本体6,800円+税)

社会的孤立の状況(OECD諸国の比較)

友人、同僚、その他宗教・スポーツ・文化グループの人と全く、あるいはめったに付き合わないと感じた比率



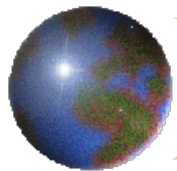
(注) 原資料は世界価値観調査1999-2002。英国はグレートブリテンのみ。

(資料) Society at a Glance: OECD Social Indicators - 2005 Edition

結果は、アジア的で伝統的な共同体意識が残っているとも見られる日本で、もっとも社会的孤立度が高く、逆に、犯罪率が高く、自殺、同性愛、安楽死を許容する程度が非常に高い、欧州的な社会意識の1つの典型をなすようなオランダで社会的孤立の指標は最も低い

日本の社会的孤立度の高さの理由については、2つの見方が成り立つ。ひとつは、伝統的な社会の絆が戦後の経済発展の中で失われてきたが新時代に順応したコミュニティが形成されていないためとする見方、もうひとつは、社交がなくとも生活に支障が生じない経済や社会が成立しているためとする見方である。

注. 第一の見方は、この図を引用している、広井良典、「持続可能な福祉社会ー「もう一つの日本」の構想」、ちくま書房、2006年に詳しい。



同伴活動の実態

～平成13年と平成18年の「社会生活基本調査」調査票B～

		American Time Use Survey		社会生活基本調査							
				外出				自宅			
				平成13年		平成18年		平成13年		平成18年	
		単独	同伴	単独	同伴	単独	同伴	単独	同伴	単独	同伴
平日	頻度	2.42	2.21	2.83	1.79	2.54	1.55	6.03	6.17	5.93	5.51
	時間(分)	286.9	102.3	319.0	93.0	330.2	86.5	249.2	229.6	257.3	218.9
週末	頻度	1.06	2.62	1.53	2.07	1.31	1.93	6.11	6.28	6.06	6.21
	時間(分)	92.5	183.7	165.2	152.7	152.5	145.3	278.0	258.7	289.9	272.4

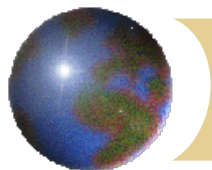
		睡眠	自宅				外出			
			単独	家族	非家族	組合せ	単独	家族	非家族	組合せ
平成13年	平日 頻度	1.28	6.03	5.96	0.13	0.07	2.83	0.41	1.29	0.09
	平日 時間(分)	466.0	249.2	220.0	6.1	3.4	319.0	22.8	63.9	6.2
	週末 頻度	1.34	6.11	6.01	0.15	0.12	1.53	0.93	0.96	0.18
	週末 時間(分)	503.7	278.0	244.4	8.4	5.9	165.2	60.9	76.7	15.0
平成18年	平日 頻度	1.25	5.90	5.37	0.08	0.06	2.54	0.44	1.04	0.08
	平日 時間(分)	461.2	257.3	211.4	4.5	4.2	330.2	26.0	56.3	4.5
	週末 頻度	1.32	6.06	6.02	0.11	0.22	1.31	0.92	0.79	0.11
	週末 時間(分)	503.1	289.9	261.9	6.4	15.8	152.5	61.0	68.6	6.4

- 日本はアメリカより**同伴活動が少ない**
- 平成13年から18年まで、平日の単独活動の総時間が更に増え、**同伴活動が減少した。**

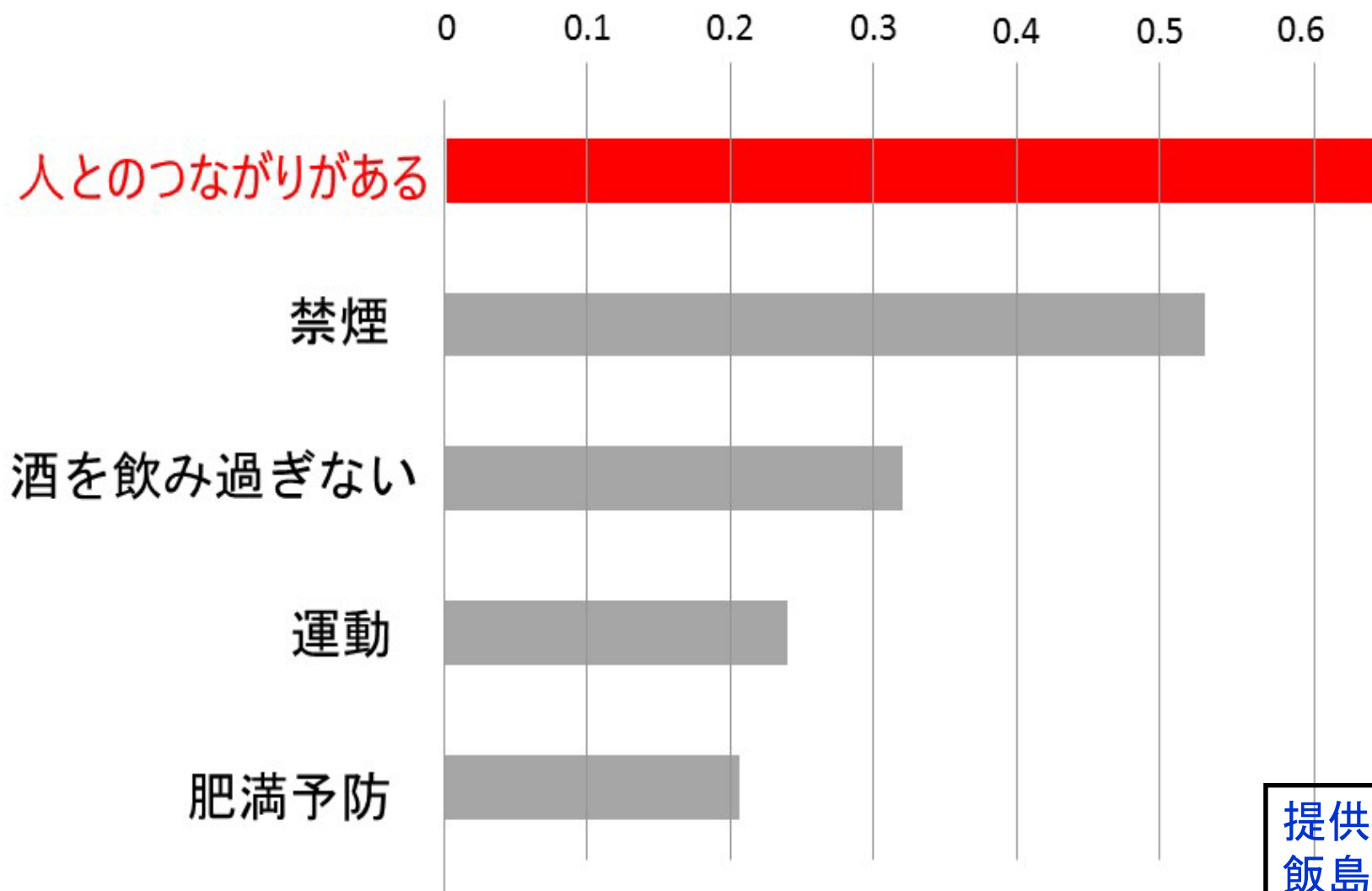


同伴者を家族同伴者、非家族同伴者、家族と非家族の組合せに分けた結果、**減少した部分はほぼ非家族同伴活動**ということを示した。

出典; 都市工学専攻所属、
銭 祺輝作成資料

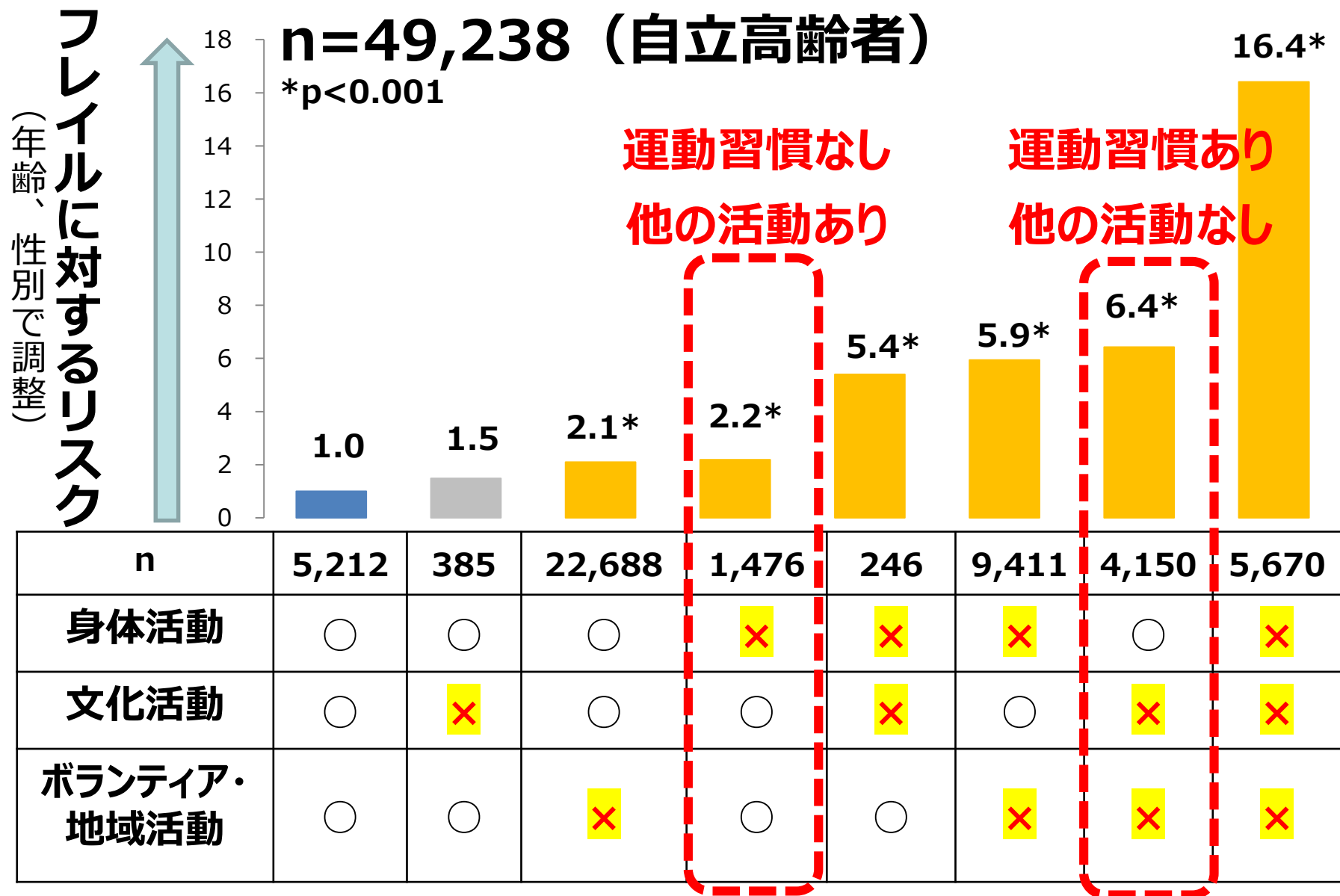


長生きに関する要因



提供;
飯島勝矢

様々な活動の複数実施とフレイル(虚弱)へのリスク



◆服部真治氏;「互助による輸送と地域支援事業

暮らしの足を考える全国大会・シンポジウム(20181017)資料

● 介護保険で高齢者の足を支える移動サービスを支援することになった。その根拠として 学術論文成果を引用。

- 人との交流は週一回未満から健康リスクに

 - ～月一回未満では1.3倍、早期死亡に至りやすい～

- サロン参加群で要介護認定率が低い

 - ～5年間追跡した結果～

- サロン会場までの距離と主観的健康観

 - ～近くに住んでいる人ほど、参加しており、主観的健康観も改善～

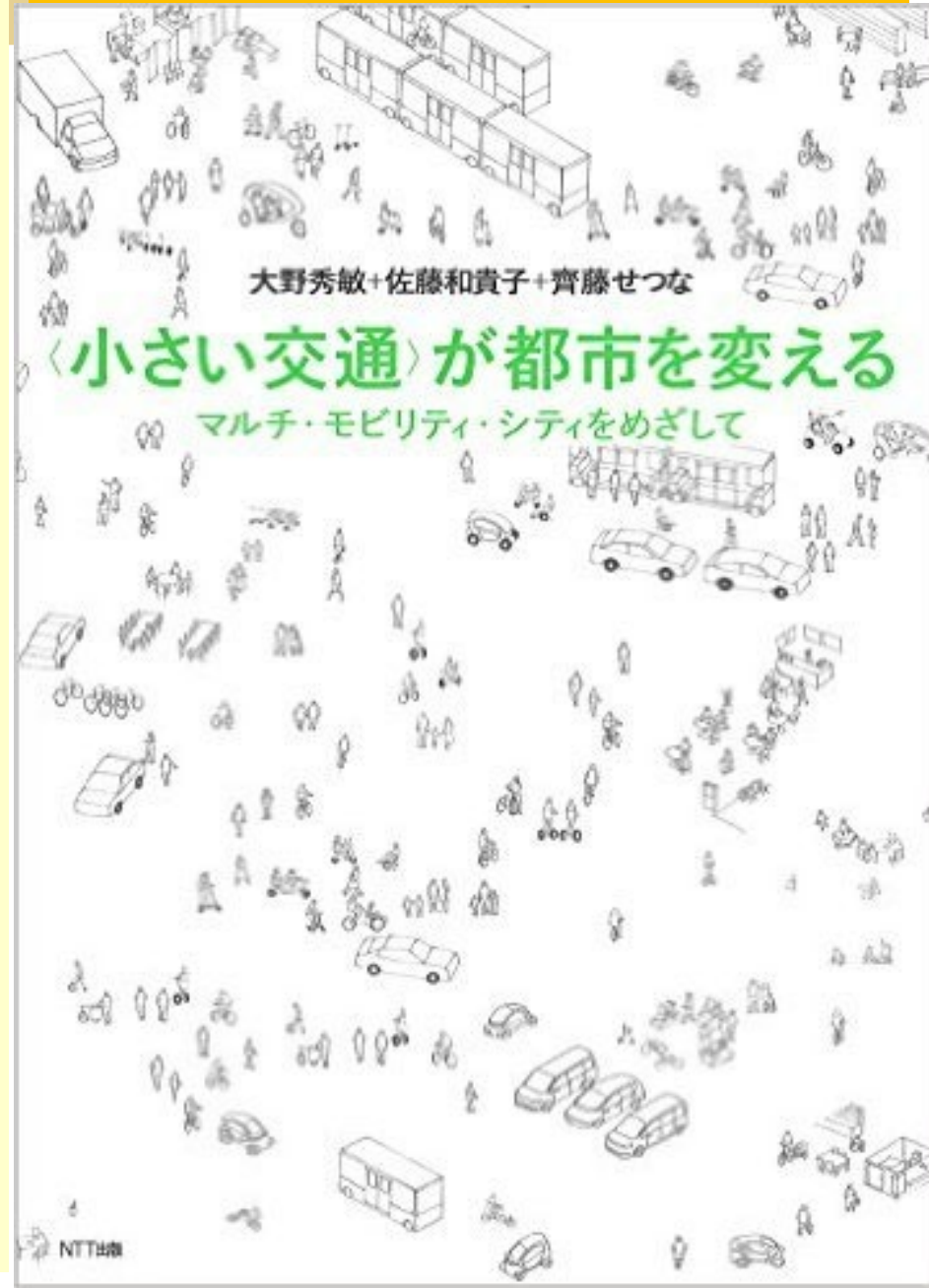
「サロンを作ったら周りの高齢者が集まってきて元気になるという効果が出たが、調べてみたら2km以内から来ていて、その外側からは来ていなかった。このカバー圏域を拡大するために移動支援サービスが必要であり、それは健康リスクの低減効果があるので、介護保険を使う」という説明でした。

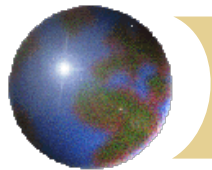
❖「寂しい社会」

❖大野秀敏 Fiber City

- ❖ 日本の状況に即して俯瞰的にみれば、高齢者だけでなく全世代で単身者が増え単身世帯の比率が高くなっていること、グローバル経済によって収入格差が拡大し平等な社会が崩壊し始めていること、自殺率が高いこと、近代以前の社会から引き継いだ地域コミュニティも近代的郊外コミュニティも弱くなっていることなどを特徴とする。
- ❖ 一方、個人の生活的視点から見れば、他人との接触が少なく、他人からの精神的ならびに物資的支援を受け入れられない孤立した孤児が増える社会である。
- ❖ こうした社会的傾向には、都市空間の編成そのものが、そのような方向を強制していることがとりわけ重要である。

「小さい交通」





◆大野秀敏先生 暖かい社会

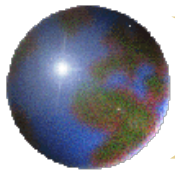
Orange ROUNDS in Fiber City (長岡市版)

✪ 移動巡回型公共サービス

✚ 移動販売車、移動市役所、移動診療車、移動人工透析車、移動美容院、移動郵便局、移動図書館車

✪ 移動巡回ユニット(車両)と移動先の建物で施設を展開する方法を合わせて提案

➤ 圏域の空間的拡大と時間的分離



ご清聴、ありがとうございました